

# 人とつむぎ、 織りなす日々のなかで 高齢期の発達

## 第4回 みんなとしてると楽しい

先月号のユミコさんは、友だちのナツコさんを大切に思う気持ちと、自分が手伝ってあげられないこととの間で、ゆれる姿があります。

一緒に歩いて、ケガをしてはいけないからと、ユミコさんとナツコさんが並んで散歩することができなくなりました。ケガのないよう健康を守ることは重要ですが、ナツコさんのためにできることはなにかをユミコさんと一緒に考えたいものです。支援する際、何十年もの時間をかけて築き上げてきた関係が老いてなお、二人にとって大切であることを忘れてはならないと思います。

### ■マチコさんのコトバ

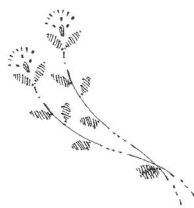
さて、今回はもみじ・あざみ最高齢のマチコさんに登場していただきます。現在、90歳代前半ですが、身の回りのことはなんでも一人でできますし、散歩などもゆったりとした足

織物がスタートしたときのマチコさんに関する記録に、「織物科のどの仕事にも興味がある」と書かれています。織物ができあがるまでの過程すべてに興味をもっていただけようです。

織物にかかわる工程にはいくつもの作業が含まれます。糸を作るところからはじめ、織物機で作品を織るまでの準備過程や織る途中、そして織ったあとにテーブルを飾るセンターピースなどの作品に仕立てあげる過程など、たくさんの人が参加して役割を担わなければなりません。どの作業も欠けてはならないものとして、むずかしい作業かどうかではなく、みんなで協力して作品をつくりあげています。

もみじ・あざみの織物は単なる生産品としてではなく、仲間と協力しあって作り、すべての作業を通して育ちあい、一人ひとりの成長を喜びあえる実践としてとりくんでこられました。完成した作品は、「織物機で織った○○さんが作ったもの」だと話しますが、みんなのなかには、どの作業を誰がしているか、どの作業があつて作品に仕上げるができるかがきちんと意識されています。

マチコさんは織物作業に参加しはじめてから、糸紡ぎなどを担当しました。その後、あざみ寮が石部に移転し織物工房がつくられてからは、機織りを始めています。マチコさん、40歳代でのことです。現在も、週3回は工房の仕事に参加し、機に向かっています。90歳になった年には、3色の大きな格子柄のセンターピースを約10メートル織っていると職員が記録しています。また、「本人の意向により、メガネ柄から平織りへ変更。お祝い会の内祝いにする」とも書かれてい



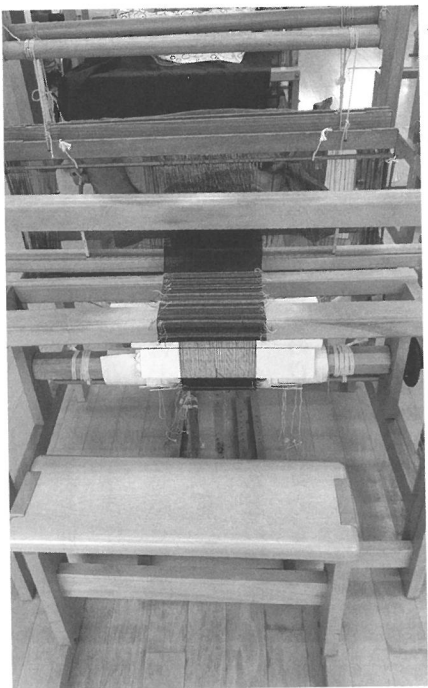
張 貞京

ちゃん ちゃんきょん／京都文教短期大学准教授。共著に『保育者のためのコミュニケーション・ワークブック』（ナカニシヤ出版）。

取りで、若い人たちと同じ距離を歩くことができます。ナツコさんのように周りでケガをした人もいるので、職員がマチコさんの注意して見守っていますが、バランスを崩すことなく安定した歩き方をしているそうです。これまで、大きな病気をすることもほとんどなく、年齢からは考えられないほど若々しいマチコさんです。

私をはじめてマチコさんに出会ったときは、還暦の前でした。黙々と織物の機はたに向かっている、周りから手伝いを求められると物静かに手を差し伸べる姿がありました。ほかの時間では、ちがうしごと場に所属しているアサコさんと一緒に行動していました。現在も、アサコさんとともに行動し、ゆったりと落ち着いた物腰のマチコさんの姿は、変わっていません。

20歳代だったマチコさんは、あざみ寮の開設当時からメンバーとなり、織物を生涯のしごととしています。あざみ寮で



◀マチコさんの織物機。いつものしごと場

ます。

長年、織物作業を指導してきた石原繁野さんは、マチコさんが90歳を超えた今も織物の技術が上達してきていると話します。織物のしごとについて、マチコさんに尋ねた際「月・水・金、仕事に行ってるけど、(もっと)行きたいけど、自分で。みんなは仕事はできるけど、織物楽しい。みんなとしてると楽しい」と話しています。

マチコさんにとって、織物は大好きなしごとなのだろうと感じます。そして、仲間と一緒にやっているからこそ、楽しいと感じていることがわかります。

### ■一緒に暮らす

みんなとしてるのが楽しいと話すマチコさんですが、若いときのマチコさんは、他者と一緒に暮らし、しごとにとり